

ご転職をお考えの先生方へ

ブリistol・マイヤーズ株式会社では、現在、メディカル・ドクター(以下 M.D.)がご活躍いただけるポジションを多様にご用意しております。

M.D.の弊社でのキャリアの可能性を明瞭にイメージしていただけるよう、BMS 日本法人に入社し、現在米国本社で抗がん剤のプロジェクト・ディレクターとして活躍中の M.D.のインタビューを行いましたので、ご参照ください。

今後のご活躍の場に、是非、ブリistol・マイヤーズ株式会社をご検討ください。

(問合せ先: 人事部採用担当または研究開発部門担当人事 03-5323-8303)

1. 製薬メーカーへのご転身を考えたきっかけは何でしたか？また、どのようなことを実現したかったのでしょうか？

転身の引き金になったのは、以前勤めていたドイツ本社の製薬会社から熱心に誘われたからです(笑)。当時、ドイツの Heidelberg 大学で、ヨーロッパ諸国の大学や医療機関が参加する大規模な臨床研究を企画実施するという仕事をしていました。ですから、その経験を活かして新薬開発で質の高い臨床試験を行い、エビデンスのしっかりした製剤を世に出したいと思ったのです。また、当時メーカーに行く人はほとんどありませんでしたので、あまり他人がやっていないことをやってみたいという気持ちもありました。

2. 入社前に製薬メーカーにはどのようなイメージを抱いていましたか？

大学や、市中病院勤務のときから、多くの治験や市販後調査に参加していましたが、プロトコルやデータの集め方を見ていて、製薬会社が出すデータの信頼性に少し疑問を感じていました。でも同時に、企業ですから仕方ないのかな、と思っていました。また、だんだんいろいろな規定(特に営業上の)が厳しくなっているようだな、ということも感じていました。

3. 製薬業界に入るにあたっての不安はありましたか？

性格的にはあまり将来を心配しない方なので、何とかなると感じていました。新しい世界に入るということで漠然とした不安はありましたが、転職先は当時住んでいたドイツに本社がある会社でしたし、ドイツ人とも上手くやっていけるだろうと楽観的でした。

4. BMS を選んだ理由は何ですか？

幸いにも前の会社で種々の医薬品の開発をすすめること、また信頼性の高い情報を提供することができ、その間にヘッドハンターを通じて多くの会社からオファーがありました(笑)。最終的に BMS への転身を決めたのは、熱心な勧誘と将来性です。

BMS は世界トップ10に入る会社で、特にアメリカでは存在感がある会社なのに、日本では抗がん剤メーカーとして名は通っているが、新薬が上市されず売り上げ規模が小さいままでした。そのギャップが大きいことから、日本法人の新薬開発はグローバル化に乗り遅れていて大きな変化が必要であると感じました。開発品や開発候補品でもいいものがたくさんあり、米国本社から日本での成長が期待されていることから、自ら変革を進めることで大きな成長を遂げることに貢献できるのではないかと思いました。

5. 実際入社してみて、BMS はどのような場所だと感じていますか？

とても魅力に感じている点は、チームで働くところです。私は、組織では、個人が個々の能力を活かすとともに、チームがひとつの目標に向かって個々の能力を集結し最大限の力として発揮することが重要であると考えます。新薬の開発を進めていくときには、いろいろな問題が出てきますが、チームでその原因を特定し、解決策を考え、実行していきます。すべて上手くいき、目標を達成できたときにはチームワークによる大きな達成感が得られます。また、業務を通して、個人を成長させる(あるいは成長する)こともできます。

6. BMS に入社して良かったことは何ですか？

1)日本の成長の可能性を米国本社に伝える、2)意思決定の手順を定めて透明化する、3)組織改革や業務手順を見直し効率化する、4)米国本社とのコミュニケーションを良くしてグローバル化を進める、5)研修カリキュラムを定めて個人の能力アップを図るなど、さまざまな提案に対して会社のサポートが得られたことで、変革を実現し、新薬の発売につなげることができました。また、BMS は個人の成果に対してきちんと評価しようという姿勢がある会社であると思います。

7. 今後どのようなことを実現したいですか？

米国本社勤務となり、いろいろな Global チームに所属することになりました。ここで実現していきたいことはたくさんあります。たとえば、1)Global チームの一員として、またチームリーダーとして、目標を達成できるよう貢献する。2)そのために、米国本社での業務の進め方やいろいろなツールに慣れる。また、その過程で、改善できることがあればどんどん提案し実現につなげる。3)リーダーシップをつねに心がけて、一緒に働いている人達(社内だけに限らず、他社、業界団体、医療機関、規制当局などのグル

ープを含め)に対し、いろいろな場面で良い影響が与えられるようにしたい、などです。

8. 今後製薬メーカーへ転身する M.D.に期待することは何ですか？

現在各社とも厳しい競争の中で経営されていますから、もし、今の医局あるいは Medical Society でうまくいかないから、製薬会社にでも行こうかという考えですと、まずその転身は成功しないと思います。

製薬メーカーにはたくさんの部署があり、医学知識や研究や臨床の経験を活かせる業務がいくつもあります。医薬品開発は一人では出来ません。チームで各メンバーがそのスキル、経験を活かして最高の仕事をする事でチームの力が最大限に発揮されます。

入社後の M.D.には、医療機関や規制当局、(外資系)企業の本社や各国の関連会社とうまくコミュニケーションをとることが必要とされます。また、医学知識に関しては最先端の知識をつねに Update 出来ることが期待されますし、ただその医学知識を使って他の社員に(第三者的に)アドバイスをするというのではなく、主体的に医薬品開発を進めていくという重要な職務を担っているという自覚も必要とされます。

新しいことにチャレンジしてみようという方、グローバルな環境で、種々のバックグラウンドを持つ人とチームで働くことに興味のある方、医薬品の進歩によって医療の発展に貢献したいという方にぜひ応募してみてほしいと思います。

以上